

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500332		
法人名	コスモケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモ向陽台 ユニット:ふじ		
所在地	仙台市泉区向陽台5丁目16番20号		
自己評価作成日	平成30年1月12日	評価結果市町村受理日	

## ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成30年1月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材不足に対応するためにもスタッフの就業時間管理に配慮しています。(残業ゼロ)</li> <li>・地域の町内会が活発なので協働する機会が多いです。(入居者様の心身低下が悩みです)</li> <li>・住診クリニック、訪問看護に加えて常勤で看護師も配置し医療面でのバックアップに努めています。</li> </ul>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2015年4月に、泉区向陽台の住宅街に開設された2階建て2ユニットのホームである。母体法人は仙台市を中心に訪問介護・通所介護・グループホーム・ショートステイ・サービス付き高齢者向け住宅等の事業を行っている。ホームは同法人のデイサービスが隣接しており、職員の支援を受けながら利用者同士の交流も行われている。近くには公園があり利用者の散歩コースになっている。町内会に加入しており、地域住民との交流がある。職員は、家族や運営推進会議での意見や要望を検討し、事業運営や介護の質の向上に努めている。職員は会議時や委員会(食事係・環境整備係・行事余暇活動係・事故防止係)で事業運営について提案し、改善に向けて取り組んでいる。管理者は職員の状況を把握し、職員が働きやすい環境作りに努めるとともに、職員の質の向上に努めている。常勤看護師を配置し、医療機関との連携もとれている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHコスモス向陽台 ）「ユニット名 ふじ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフは理念を暗記し、朝礼時に唱和している。またユニットごとの理念を作成して理解を深めている。	ユニット毎に理念を掲げ、毎朝唱和している。職員は理念を再確認してケアにあたるよう努め、年に1回、年度末に理念の見直しを行っている。理念を念頭に、介護計画を作成している。新人はオリエンテーションで理念について学んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会と連携し地域清掃や芋煮会の行事、介護予防教室や豊齢茶話会に参加している。	町内会に加入しており、町内の運動会、芋煮会等の行事への案内がある。ホームの夏祭りや芋煮会で地域住民と交流している。町内会から健康体操の講師を依頼された。不定期だが「歌の弾き語りボランティア」が来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記と同じく積極的に地域に出向いて介護予防教室などに参加し説明している。雪かきも積極的に実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は包括、町内会、家族も含めて行事と絡めて行う事もあり、1、2階で偏らないようにしている。	町内会長、民生委員、地域包括職員、近隣住民、家族、職員が参加し、年6回開催している。避難訓練を地域住民に案内し、参加があり協力が得られた。災害時のホームの役割についてなどの意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故発生時や何か疑問点が発生した場合は市の指導係などに相談するようにしている。	市担当者とは、介護報酬の件、運営上の疑問があった時など、その都度相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束防止の研修を実施し、身体拘束の正しい知識を身に付け無意識に拘束するように無いよう研修している。	外部研修参加や内部研修実施により、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。新任の職員には、何が身体拘束なのか丁寧に指導している。外出傾向を把握し、一緒に散歩したり、危険のないよう見守っている。夜間20時30分から7時まで、防犯上施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待防止研修を実施し虐待の種類を学び無意識に虐待してしまわないよう正しい知識を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1階ふじには日常生活自立支援事業を利用されている方がおり、実務と研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が懇切丁寧に説明し、2部準備してそれぞれに押印、サインをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置している。毎日確認しているが、実際に記入されたことは無い。	運営推進会議は家族全員に案内している。意見箱を設置しているが、家族が訪問時に日々の様子を伝え、要望や意向を聞いている。各ユニットが毎月「さくら通信」、「ふじ便り」を発行し家族に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の月例会議について運営について意見を述べてもらっている。	職員は会議時や委員会（食事係・環境整備係・行事余暇活動係・事故防止係）で運営について提案し、改善に向けて取り組んでいる。また、日頃から管理者は、職員の意見を聞き、働きやすい環境を整えている。昨年秋から、リーダー制を設けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者会議や来所にて職場内環境を把握し改善に努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修や認知症介護実践者研修・など外部研修に参加し知識を深め、職場で活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やネットワークに参加する機会はあるがもっと増やしたいと思っている。2階に比べると研修参加は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにてご本人様と話し、状況を把握し要望等をケアに反映しながら自立支援に向けられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの内容などご本人様ご家族様と会話し傾聴しながら信頼関係を構築できる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の不安に配慮した支援対応を行いながら心身の安定につながるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のペースや出来る事やっていた事に配慮し、継続して行える様に支えていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症の進行など対応困難な場合ご家族様と連携し一緒に考えて対応をしていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある物を持参して頂き居心地の良い生活が出来る様努めている。	家族と馴染みの店に出かけたり、自宅に泊まりに行けるよう支援している。家族や知人の面会も多い。以前通っていた隣接するデイサービス(同法人)が馴染みの場所で、そこで知人と交流し、馴染みの関係が継続できるように支援している。デイサービスの行事に参加することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時に入居者様同士のトラブルが発生するが認知症が故でもあるのでスタッフが仲介に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近では退去は無いが、その場合は関係機関と地域、家族の間で良好な支援が継続できるようフォローしていく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何よりも本人様のご意向を大事にして、やりがいや自信が持てるように支援していく。	日頃の会話の中から、利用者の好きだったこと、やりたいことを聞き把握するようにしている。また、家族からも話を聞き、意向の把握に努めている。趣味や食器洗い、拭き方、片付けなどを介護計画に反映し実施できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の状況を把握しモニタリング・再アセスメントしながらケアに取り入れ自立支援に向けられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の残存能力を見極め、ケアに取り入れ自立支援にむけられるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスにて意見を出し合いその時の状態に合わせたケアが出来る様話し合い作成している。	日々の様子をもとに、毎月カンファレンスを行い、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。遠方の家族にも、電話で意見を聞き、説明し、介護計画を郵送して同意を得ている。状態の変化によって随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を付けてはいるが、マンネリ化しないように配慮して貴重な一日を支援できるように配慮する		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージや歯科往診、訪問理容など、ご本人様のニーズに合わせたサービスを取り入れて支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係性は大変良好ではあるが認知症状の進行と職員不足により地域に出ていく事は困難なのが悩みである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの主治医の往診を受けている。また今までの医療機関への往診もご家族様と受診が出来る様に努めている。	ほとんどの利用者が往診医をかかりつけ医にしている。医師に利用者の状態を報告するシートを作成している。歯科医師の往診を受けることもできる。職員が事前に家族から要望を聞き、専門医の通院介助を行っており、受診後は家族へ報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師スタッフや訪問看護師との連携を密にし、状態にあった看護が出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携を密にし、入院時に施設での様子状態を伝え、退院後のケア方針など相談を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を設けて入居時に説明している。実際にターミナルケア実施となった場合は関係者や家族と連携し真摯に執り行う。	入居時に「看取りに関する指針」をもとに利用者と家族に説明し同意を得ている。重度化した場合、事業所としてできること、できないことを家族と関係者で話し合い、医師の指示で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいた研修を行い、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、対応できるようにしている。運営推進会議では地域の方に参加してもらっている。言葉使いに配慮すると同時にお部屋に入る際も同意を頂くなど細心の注意を払ってプライバシーに配慮している。	火災、地震対応マニュアルはあり、風水害マニュアルも作成した。避難訓練は、地域住民の参加を得て、夜間想定訓練も含め消防署立会いのもと年2回実施している。消火器等の設備点検を定期的に業者に依頼している。非常食を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに配慮すると同時にお部屋に入る際も同意を頂くなど細心の注意を払ってプライバシーに配慮している。	接遇やプライバシー保護についての研修を行い、誇りや尊厳を傷つけないようケアに努めている。トイレ介助時の声がけや、入室の時も声がけをするなどプライバシーに配慮した支援をしている。苗字や名前に「○○さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを通じて、したい事などご本人様の意思決定が出来る様な関わりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人様のペースに合わせた支援を心がけており、何をするか希望に合わせてられるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフ介助の他、お部屋の中でも自分でやり方方には物品準備して自分で出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の味付け方法を聞いたり、スタッフや他の利用者様と一緒に食器拭きを行う等の支援を行っている。	委託業者から献立と食材が届き、職員が調理している。食事を通して季節を感じられるように心がけ、誕生会などの行事食は、利用者の希望を取り入れている。七草粥などの要望に応えた。法人内に栄養士がおり、相談している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の把握を行い、少ない方には声掛けし促したり、一人ひとりに合わせた食事形態の配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔保持に努めている。必要時には訪問歯科に治療をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した排泄が出来る様声掛けや物品に配慮している。介助の必要な方へは適宜トイレ誘導を行っている。	排泄パターンを把握し、日中はできるだけトイレで排泄できるよう、声がけし誘導している。夜間は、必要に応じて声掛けし、家族に相談してパッドの使用など工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の朝礼時にナースやスタッフ同士で排便確認の抜けが無い確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表にて管理し定期的に入浴できるように努めている。ご本人様の体調や気分に合わせてたりと柔軟な対応をしている。	週3回、1日おきに入浴できるよう支援し、入浴剤を活用する事もある。体調によりシャワー浴で対応する場合もある。同性介助の希望にも応えるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足のむくみがある方も多いが、定時で足の挙上をしたりソファで過ごされたりと安楽に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	セット時、服薬介助時にスタッフ間でダブルチェックを実施して間違いが無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみなど役割と感じ、継続して行えるように支援行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣のデイサービスの行事に参加交流を行ったり、外食や買い物支援している。季節の良い時は玄関ベンチも活用。	同法人のデイサービスのバスを借りるなど工夫をして、車椅子の利用者も含め水族館などに外出している。日常的には近くの公園を散歩したり、カフェや買い物などへの外出支援をしている。家族ともカフェや墓参りに出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員預かりにて管理を行っている。お買い物に行った時は極力本人様が払える方は払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使用しご家族様へ連絡をとり、会話を楽しめる様支援行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある雰囲気作りを提供するため、装飾物を利用者様と共に作成し飾っている。	共用空間は家庭的な雰囲気になるように配慮され、日当たりが良く明るく、掃除も行き届いている。温・湿度の管理は職員が行っている。利用者の書初めや塗り絵、季節感のあるちぎり絵などが飾られ、時計や手作りの日めくりカレンダーが見やすい場所に掛けてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になる時間も大切にし居室にてテレビや休息の時間を取って頂いたりソファにてゆったりと過ごして頂いたり工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り馴染みのある布団や服、写真等を持参して頂き、ご本人様の安心した生活が出来る様に工夫している。	居室にはベッド、エアコン、クローゼット、防災カーテンが備え付けてある。利用者は馴染みの物(家族の写真、仏壇や位牌、テレビなど)を持ち込み、思い思いの過ごし方ができるようにしている。居室の温・湿度管理も職員が適切に行っている。掃除は、職員が毎日行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下の明るさに配慮し、また動線の確保に努め、安全に生活出来る様配慮している。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500332		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス向陽台 ユニット:さくら		
所在地	仙台市泉区向陽台5丁目16番20号		
自己評価作成日	平成30年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成30年1月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材不足に対応するためにもスタッフの就業時間管理に配慮しています。(残業ゼロ)</li> <li>・地域の町内会が活発なので協働する機会が多いです。(入居者様の心身低下が悩みです)</li> <li>・往診クリニック、訪問看護に加えて常勤で看護師も配置し医療面でのバックアップに努めています。</li> </ul>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2015年4月に、泉区向陽台の住宅街に開設された2階建て2ユニットのホームである。母体法人は仙台市を中心に訪問介護・通所介護・グループホーム・ショートステイ・サービス付き高齢者向け住宅等の事業を行っている。ホームは同法人のデイサービスが隣接しており、職員の支援を受けながら利用者同士の交流も行われている。近くには公園があり利用者の散歩コースになっている。町内会に加入しており、地域住民との交流がある。職員は、家族や運営推進会議での意見や要望を検討し、事業運営や介護の質の向上に努めている。職員は会議時や委員会(食事係・環境整備係・行事余暇活動係・事故防止係)で事業運営について提案し、改善に向けて取り組んでいる。管理者は職員の状況を把握し、職員が働きやすい環境作りに努めるとともに、職員の質の向上に努めている。常勤看護師を配置し、医療機関との連携もとれている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHコスモス向陽台 ）「ユニット名 さくら 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を定めて毎朝朝礼で唱和している。またユニットごとの理念を作成して理解を深めている。	ユニット毎に理念を掲げ、毎朝唱和している。職員は理念を再確認してケアにあたるよう努め、年に1回、年度末に理念の見直しを行っている。理念を念頭に、介護計画を作成している。新人はオリエンテーションで理念について学んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会と連携し地域清掃や芋煮会の行事、介護予防教室や豊齢茶話会に参加している。	町内会に加入しており、町内の運動会、芋煮会等の行事への案内がある。ホームの夏祭りや芋煮会で地域住民と交流している。町内会から健康体操の講師を依頼された。不定期だが「歌の弾き語りボランティア」が来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記と同じく積極的に地域に出向いて介護予防教室などに参加し説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は包括、町内会、民生委員、本人様や家族も加えてサービス実施状況や連携状況について確認している。	町内会長、民生委員、地域包括職員、近隣住民、家族、職員が参加し、年6回開催している。避難訓練を地域住民に案内し、参加があり協力が得られた。災害時のホームの役割についてなどの意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故発生時や何か疑問点が発生した場合は市の指導係などに相談するようにしている。	市担当者とは、介護報酬の件、運営上の疑問があった時など、その都度相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束防止の研修を実施し、身体拘束の正しい知識を身に付け無意識に拘束するように無いよう研修している。	外部研修参加や内部研修実施により、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。新任の職員には、何が身体拘束なのか丁寧に指導している。外出傾向を把握し、一緒に散歩したり、危険のないよう見守っている。夜間20時30分から7時まで、防犯上施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待防止研修を実施し虐待の種類を学び無意識に虐待してしまわないよう正しい知識を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2階さくらには左記の事業利用者は居ないが、研修を実施し、1階の利用者の様子を聞くなど学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が懇切丁寧に説明し、2部準備してそれぞれに押印、サインをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置している。意見箱は1階にあるので2階スタッフは一層家族とのコミュニケーションに配慮している。	運営推進会議は家族全員に案内している。意見箱を設置しているが、家族が訪問時に日々の様子を伝え、要望や意向を聞いている。各ユニットが毎月「さくら通信」、「ふじ便り」を発行し家族に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の月例会議について運営について意見を述べてもらっている。	職員は会議時や委員会（食事係・環境整備係・行事余暇活動係・事故防止係）で運営について提案し、改善に向けて取り組んでいる。また、日頃から管理者は、職員の意見を聞き、働きやすい環境を整えている。昨年秋から、リーダー制を設けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者会議や来所にて職場内環境を把握し改善に努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修や認知症介護実践者研修・など外部研修に参加し知識を深め、職場で活かしている。担当者制で育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やネットワークに参加する機会はあるがもっと増やしたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	2階さくらは認知症が強い方が多く、本人様の内面が理解できるようスタッフで配慮し記録作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の進行は家族様にとっても心配なことであるので誠意的に対応し一緒に考えていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居直後の方は帰宅願望が出る傾向が強いのので一層の声がけと配慮をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のペースや出来る事やっていた事に配慮し、継続して行える様に支えていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症の進行など対応困難な場合ご家族様と連携し一緒に考えて対応をしていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある物を持参して頂いているが、馴染みの物や写真を壊してしまう方もおられ慎重にケアしている。	家族と馴染みの店に出かけたり、自宅に泊まりに行けるよう支援している。家族や知人の面会も多い。以前通っていた隣接するデイサービス(同法人)が馴染みの場所で、そこで知人と交流し、馴染みの関係が継続できるように支援している。デイサービスの行事に参加することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い利用者様と会話して楽しめる様な環境作りに心がけ、会話の橋渡しができるような配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院⇒ご逝去という形が多いが過去の関係を大事にしてフォローしていく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る事やりたい事をコミュニケーションを通じて把握出来る様努めている。	日頃の会話の中から、利用者の好きだったこと、やりたいことを聞き把握するようにしている。また、家族からも話を聞き、意向の把握に努めている。趣味や食器洗い、拭き方、片付けなどを介護計画に反映し実施できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の状況を把握しモニタリング・再アセスメントしながらケアに取り入れ自立支援に向けられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症が強く昼夜逆転がある方などは24時間シートを作成しドクターと連携して一日の過ごし方に配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスにて意見を出し合いその時の状態に合わせたケアが出来る様話し合い作成している。	日々の様子をもとに、毎月カンファレンスを行い、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。遠方の家族にも、電話で意見を聞き、説明し、介護計画を郵送して同意を得ている。状態の変化によって随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を活かし、情報共有を行いながら実践し、カンファレンス時に見直し出来る様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージや歯科往診、訪問理容など、ご本人様のニーズに合わせたサービスを取り入れて支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係性は大変良好ではあるが認知症状の進行と職員不足により地域に出ていく事は困難なのが悩みである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と専門分野医の併用の方が多く、仲介できるように看護師中心にフォローしている。	ほとんどの利用者が往診医をかかりつけ医にしている。医師に利用者の状態を報告するシートを作成している。歯科医師の往診を受けることもできる。職員が事前に家族から要望を聞き、専門医の通院介助を行っており、受診後は家族へ報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師スタッフや訪問看護師との連携を密にし、状態にあった看護が出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	最近認知症により当日退院、翌日退院を言われることが多く、一層認知状態の申し送りが不可欠である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を設けて入居時に説明している。実際にターミナルケア実施となった場合は関係者や家族と連携し真摯に執り行う。	入居時に「看取りに関する指針」をもとに利用者と家族に説明し同意を得ている。重度化した場合、事業所としてできること、できないことを家族と関係者で話し合い、医師の指示で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに基づいた研修を行い、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、対応できるようにしている。運営推進会議では地域の方に参加してもらっている。	火災、地震対応マニュアルはあり、風水害マニュアルも作成した。避難訓練は、地域住民の参加を得て、夜間想定訓練も含め消防署立会いのもと年2回実施している。消火器等の設備点検を定期的に業者に依頼している。非常食を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する研修を行い、一人ひとりの尊厳が守れるように努めている。	接遇やプライバシー保護についての研修を行い、誇りや尊厳を傷つけないようケアに努めている。トイレ介助時の声がけや、入室の時も声がけをするなどプライバシーに配慮した支援をしている。苗字や名前に「〇〇さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が困難な方も多いが家族に聞いたり表情から読み取ったりして自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼夜逆転の方も多いが本人様の本来のペースを予想し、スタッフ優先のスケジュールにならないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪型・ひげなどの身だしなみに配慮して自己選択できるよう支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知の強い方も多いが、時に一緒に調理したり自己実現に努める。片づけは一緒に行っている。	委託業者から献立と食材が届き、職員が調理している。食事を通して季節を感じられるように心がけ、誕生会などの行事食は、利用者の希望を取り入れている。七草粥などの要望に応えた。法人内に栄養士がおり、相談している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に摂取量が少ない方についてはドクターと連携の上、補助ドリンクの活用など配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔保持に努めている。必要時には訪問歯科に治療をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した排泄が出来る様声掛けや物品に配慮している。介助の必要な方へは適宜トイレ誘導を行っている。	排泄パターンを把握し、日中はできるだけトイレで排泄できるよう、声がけし誘導している。夜間は、必要に応じて声掛けし、家族に相談してパッドの使用など工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や排便の有無を確認して支援を行っている。運動不足も原因と理解し体操を行い排泄への促しに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否のある方に関しては本人様の気分や体調を最優先して柔軟に対応して入浴機会を確保している。	週3回、1日おきに入浴できるよう支援し、入浴剤を活用する事もある。体調によりシャワー浴で対応する場合もある。同性介助の希望にも応えるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせ、午後の休息をして頂いている。温度や湿度管理にも配慮を行い、安眠の出来る環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ間でチェックを十分に行い誤薬の無いように努めている。状態にあった服薬が出来る様確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみなど役割と感じ、継続して行えるように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園に散歩に行ったり隣のデイサービスでの行事に参加交流を行ったり、外食や買い物を実施し支援している。	同法人のデイサービスのバスを借りるなど工夫をして、車椅子の利用者も含め水族館などに外出している。日常的には近くの公園を散歩したり、カフェや買い物などへの外出支援をしている。家族ともカフェや墓参りに出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員預かりにて管理を行っている。お買い物に行った時は極力本人様が払える方は払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方がおられるので使い方や充電の支援を行いコミュニケーションの介助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の季節ごとの貼り絵共同作業や装飾物を利用者様と共に作成し飾っている。	共用空間は家庭的な雰囲気になるように配慮され、日当たりが良く明るく、掃除も行き届いている。温・湿度の管理は職員が行っている。利用者の書初めや塗り絵、季節感のあるちぎり絵などが飾られ、時計や手作りの日めくりカレンダーが見やすい場所に掛けてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になる時間も大切にし居室にてテレビや休息の時間を取って頂いたりソファにてゆったりと過ごして頂いたり工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り馴染みのある布団や服、写真等を持参して頂き、ご本人様の安心した生活出来る様に工夫している。	居室にはベッド、エアコン、クローゼット、防災カーテンが備え付けてある。利用者は馴染みの物(家族の写真、仏壇や位牌、テレビなど)を持ち込み、思い思いの過ごし方ができるようにしている。居室の温・湿度管理も職員が適切に行っている。掃除は、職員が毎日行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下の明るさに配慮し、また動線の確保に努め、安全に生活出来る様配慮している。		